

青森県内5つの美術館・アートセンターによるアートフェス

# AOMORI GOKAN アートフェス 2024

「つらなりのはらっぱ」

2024年4月13日(土) — 9月1日(日)

## 2024年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」について

「はらっぱ」と聞いて思い浮かべる風景は人それぞれ違うように、青森には「はらっぱ」にたとえられる、個性豊かな5つの現代美術を扱う館が揃っています。「はらっぱ」は目的をもって行くところではなく、訪れることでなにかに会い、なにかが起る、特別だけれど日常とも地続きの場所です。そこは、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り返される場とも言えます。本テーマには、5つの美術館やアートセンターがまさに「はらっぱ」のように機能し、それぞれの個性的な活動のつらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの思いが込められています。5館それぞれの「つらなりのはらっぱ」を通して、これまでにない風景がいま、ここに立ち上がることを目指します。

## 本アートフェスの特徴

### ■新しい文化芸術ネットワークの在り方を探る

本アートフェスではディレクターを置かず、5館の学芸員が集まって議論を重ね、コンセプトやテーマを練りあげていきました。これは新しい文化芸術ネットワークの在り方を探り、青森県の文化的多様性とその魅力を伝えていく試みとなります。

### ■5館の個性を接続させることで浮かび上がる「つらなりのはらっぱ」というテーマ

5館は青森市、弘前市、八戸市、十和田市にそれぞれ点在しています。文化圏や都市機能の異なる地域で、5つの館もそれぞれ個性的な活動を行っています。プロジェクトによって各館がゆるやかにつながり、その効果を県全域に波及させていくことを目指した「芸術文化体験+観光」プロジェクトです。今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」のもと、5館の特徴を活かした展覧会、また共通企画として栗林隆《元気炉》が各館を巡回します。

### ■子どもたちが楽しく、アートに触れられる5館共通の鑑賞ツール

アートフェスをより深く楽しむため、子どもや親子を対象とした鑑賞ツールを用意します。5館に親しむための情報や作品鑑賞のコツなどアート体験の入口となるコンテンツのほか、各館の展示やプロジェクトに関するワークシートを制作予定です。※2024年7月完成予定

### ■青森県内の多彩な魅力を5つの美術館、アートセンターを軸に体験する周遊プラン

本州最北端に位置し、三方を海に囲まれた青森県は地域により気候や風土が異なり多彩な伝統、自然、食文化に恵まれています。アートフェスでは、その魅力を再発見してもらうことを目的に、工芸、建築、自然などをテーマに設定し、国内外、また県民や近隣の方にも新しいアートを通じた体験を提案します。

## [メイン企画] 青森県立美術館

### かさなりとまじわり

- 会期 前期：2024年4月13日（土）－6月23日（日）  
後期：2024年7月6日（土）－9月29日（日）
- 会場 青森県立美術館 地下1階展示室、コミュニティギャラリー、ワークショップエリア、屋外ヤード
- 開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休み 第2・第4月曜日および5/14（火）、15（水）、6/24（月）～7/5（金）
- 参加作家 原口典之 | 吉田克朗、吉田槲子 | 青木 淳 | 井田大介 | 大森裕美子、大森記詩、吉田有紀、  
青秀祐 | Viirtualion ほか



左) 参考図版 吉田克朗 《work 9》 1970年 ユミコチバアソシエイツ蔵

右) 参考図版 原口典之 《F-8E CRUSADER》（「十字路口-CROSSROAD」ART BASE 百島広島での展示風景）  
2014年 ©ART BASE MOMOSHIMA

青森県立美術館を設計した青木淳氏が提唱した「原っぱ」論を援用し、展示室のみならず、コミュニティギャラリーやワークショップエリア、屋外ヤードなども展示やプロジェクトに活用します。展示室を含めた諸室をそれぞれの「原っぱ」に見立て、館内外の至るところでアートを発見、鑑賞、体験できる場を設けることで、美術館全体に大きな「つらなり」を生み出していきます。「展示室で展覧会を見て、ショップやカフェに立ち寄って帰る」だけでなく、県立美術館というひとつの街を自由に散策しながら、建築×アートの魅力を美術館全体から体感いただけます。

テーマは「かさなりとまじわり」。美術館を構成する特徴的な各空間が「かさなり」、いくつかのコンセプトに沿って作品がインストールされることで、青森の自然と人間の「まじわり」、死んだものと生きているものの「まじわり」、現代社会のありようとこれから未来を切り拓いていく人たちとの「まじわり」の諸相を浮かび上がらせていきます。

三内丸山遺跡に着想を得た美術館の施設内外を往還しながら、縄文からつらなる長い時間の中で堆積してきた青森の文化芸術のエネルギーを引き出し、豊かな青い森の生態系のように展示空間を連鎖、循環させることで、未来を切り開くための新しい活力を美術館全体に充満させる試みです。尚、アートフェスの開幕を記念し、5館の企画展・プロジェクトの参加アーティストによるクロストークを開催します。

（2024年4月14日（日）14:00-16:00 県立美術館シアターにて）

[メイン企画] 青森公立大学 国際芸術センター青森

currents / undercurrents  
-いま、めくるめく流れは出会って

会期	前期：2024年4月13日（土） - 6月30日（日） 後期：2024年7月13日（土） - 9月29日（日）
会場	国際芸術センター青森 ギャラリーA・B
開館時間	10:00~18:00
休み	会期中は休み無し
参加作家	青野文昭、Jumana Emil Abboud（ジュマナ・エミル・アブード）、岩根愛、是恒さくら、工藤省治、光岡幸一、中嶋幸治、澤田教一、鈴木正治、Jasmine Togo-Brisby（ジャスミン・トーゴ＝ブリスピー）、Robin White（ロビン・ホワイト）、[後期のみ] アイヌの衣服（青森市教育委員会所蔵）
会場構成	山川陸



岩根愛 《The Opening》 2022年

本展では、「現在」という意味をもちながら、海流や気流をはじめとして、ある一定の方向に動く水や空気、電流などの変わり続ける流れを示す「current」と、表面や他の流れの下にある目に見え難い流れや暗示を意味する「undercurrent」をキーワードとして、ある場所とかかわり合いながら表現をつむぎ出す国内外のアーティスト、そして青森ゆかりの表現者たちによる作品が集まります。前期と後期の出展作家は同じですが、会期半ばで展示替えをし、異なる2つの展覧会を行うことで、一回限りでない場所への働きかけや、変化し続ける「いま」をこの場に取り込むことを試みます。それぞれの表現が発生させる流れや渦のようなものが、出会い交差することで、また新たな流れや渦を無数に生成させていく…実験的なアプローチを通して、私たちの現在地を問う企画です。

野外彫刻 |

青森公立大学 国際芸術センター青森の敷地内には野外作品が点在しています。野外彫刻作品、アーティストインレジデンスで制作されその後、展示される作品が混在しています。自然豊かな森の散策と共に国内外の作家による作品を鑑賞いただけます。

国際芸術センター青森は、表現活動を行う人々が全世界から集い、宿泊しながら地域住民や学生らと交流し、滞在制作を行うアートセンターです。

表現者たちは偶然や必然に導かれながら移動し、この青森という土地/場所へやってきます。古代からヒトをはじめとした生き物は、自然の力も借りながら、移動を続けることで生きてきました。生まれた場所、定住する場所、前にいた場所、そしてこれから行く場所は、今たまたま現在地であるここ青森と、どのようにかかわり合うのでしょうか。そして、様々な場所の自然や人間、非人間たちといった存在、そして歴史や記憶と私たちは、いかに交差しつつ、語り合い、とらえ直しながら生きていくことが可能なのでしょうか。



青野文昭 《ここにいないものたちのための群像 - 何処から来て何処へ行くのか - サイノカワラ 2016》 2014 - 2016年



河口龍夫 《関係-時の杖》 2023



## [メイン企画] 弘前れんが倉庫美術館

- はかな きら  
① 蜷川実花展 with EiM : 儚くも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature  
しらかみのぞきみこう  
② 弘前エクステンジ #06 「白神観見考」



会期 2024年4月6日(土) - 9月1日(日)  
会場 ①弘前れんが倉庫美術館  
②弘前れんが倉庫美術館、HIROSAKI ORANDO、  
ギャラリーまんなか  
開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
休み 火曜日 ※ただし4/23(火)・30(火)、8/6(火)は開館  
※館外展示の営業時間は各施設に準ずる  
参加作家 ①蜷川実花 with EiM [Eternity in a Moment]  
②狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.

蜷川実花《花、瞬く光》2022年 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

弘前れんが倉庫美術館では展覧会とリサーチ・プロジェクトを実施します。展覧会「蜷川実花展 with EiM : 儚くも煌めく境界」は、写真家・映画監督の蜷川実花が、データサイエンティストの宮田裕章、セットデザイナーのEnzo、クリエイティブディレクターの桑名功らと結成したクリエイティブチーム・EiMとの協働により実現する大規模な個展です。うつろう時間やながれゆく季節の境界を超える壮大なインスタレーションを発表するほか、蜷川が弘前をはじめ、日本各地で撮影した桜の写真など、人の手とまなざしに育まれた花や木々を捉えた作品群を紹介します。展覧会を通じて、人間と自然とが築いてきた関係性を浮かび上がらせ、それぞれが住まう土地の自然やその背景にある文化、歴史を新たな視点から捉え直す機会となることを目指します。

弘前エクステンジ #06 「白神観見考」は、青森県南西部に位置し、弘前市を含む津軽平野を流れる岩木川の源流の地でもある白神山をテーマに実施するリサーチ・プロジェクトです。狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK. の4組のアーティストたちが、それぞれの視点で、作品展示を始め、ワークショップやトークイベントなどを実施します。古くから人々の生活を支えてきた川の源となる山々に目を向け、そこに息づく動植物や人々の営みの時間が積み重なる景色に触れることで、いつもの風景が異なるものに見えるてくるきっかけとなることでしょう。



左) 参考図版 永沢碧衣《村景》2019年 ©かみこあにプロジェクト (秋田)

右) 参考図版 狩野哲郎 《21の特別な要求》2021年 Courtesy of the artist

## [メイン企画] 八戸市美術館

### エンジョイ！アートファーム！！

会期	2024年4月13日(土) - 9月1日(日)
会場	八戸市美術館 ジャイアントルーム
開館時間	10:00~19:00
休み	火曜日(祝日の場合は翌日) および6/26(水) *ただし4/30(火)、8/13(火)は開館
参加作家	磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平
会場構成	佐藤慎也



5人のアーティストたち  
(左から磯島、東方、漆畑、しばやまいぬ、蜂屋)

八戸市美術館のコンセプト「出会いと学びのアートファーム」を体現する企画を実施します。展覧会やプロジェクト、コミュニケーションを種として、そこに訪れた人々が得る出会いや学びが栄養となり、それぞれの感性や創造力が育まれる。美術館は、その畑(ファーム)として、多様な活動の土壌となり、まちの未来を創造していきます。そんな美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、八戸を拠点に活動する5人のアーティストが、来館者と共につくり、楽しむプロジェクトを展開していきます。作品を鑑賞したり、絵を描いたり、トークプログラムに参加してみたり、ジャイアントルームに滞在するアーティストと交流したり……。絵画や版画、写真、ダンスなど、多様なジャンルで日々繰り広げられる活動により、来館者とアーティストがこの場で出会い、関わり合うことで、まるで畑に蒔いた種のようにどんどん育っていくことを期待しています。

訪れるたびに变化するジャイアントルームのあり方は、訪れる人によって使い方が決められていく「はらっぱ」のような場でもあります。

「はらっぱ」でもあり、「ファーム」でもあるこのジャイアントルームで、様々な作品や活動、そしてアーティストとの出会いをお楽しみいただけます。



東方悠平 《TENGUBUCKS Cafe in Hue - Coffee Float》  
2019年



しばやまいぬ 《疾風少女2》  
2018年

## [メイン企画] 十和田市現代美術館

### 野良になる



参考図版 丹羽海子 《Metropolis Series: Good Egg Community》2022年  
Courtesy the artist and Someday, New York Photo: Daniel Terna

会期	2024年4月13日(土) - 11月17日(日)
会場	十和田市現代美術館
開館時間	9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休み	月曜日(祝日の場合は翌火曜日) ※ただし、4/22(月)、30(火)、5/6(月)、7/15(月)、 29(月)、8/5(月)、13(火)、9/16(月)、23(月)、 10/14(月)、11/4(月)は開館
参加作家	丹羽海子、墓原蓉子、アナイス・カレニン、永田康祐

近年、世界規模で気候変動への危機感が高まり、人間の自然に対する関係を再考することが求められています。しかし現在私たちが知る「人間」のあり方そのものが、自然を管理すべき他者として収奪してきたものであるならば、そのおなじ「人間」が自然を「救う」ことができるのでしょうか。

本展では近代が生み出した自律した理性的な主体としての「人間」を見直し、その成立過程で排除された存在や思考に目を向けます。私たちの思考を規定するさまざまな二項対立的な枠組みの境界を攪乱しつつ強かに——野生でも飼われるのでもなく野良のように——息づくあり方、物語に出会うことになるでしょう。

日本とアメリカにルーツを持ち、トランスジェンダー女性として生きるあり方を彫刻で表現する丹羽海子、10歳の頃に学校教育を離れ、研ぎ澄まされた独学の感性で風景を描く墓原蓉子、品種改良や養殖といった人間のコントロールと動植物の生が交錯する関係を取り上げ、映像や料理の作品を作る永田康祐、ブラジルに植民地時代以前から伝わる知識をもとに、植物と人間の関係性を問い直す作品を制作するアナイス・カレニンなど、多様な視点から自然を捉えるアーティストの表現を紹介します。国内外の若手作家の新作を中心に、彫刻、映像、ウールのタペストリー、サウンド、インスタレーション、食など、多岐にわたる表現形式で現代アートを楽しめる展覧会です。



参考図版 墓原蓉子 《それじゃわからない》2022年 ©Yoko Daihara, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo.

参考図版 アナイス・カレニン 《リコマベ》2022年 Photo: 竹久直樹

参考図版 永田康祐 《Purée》2020年

### 常設展示 |

常設展では、人間と自然をテーマに、ロン・ミュエクや、塩田千春、レアンドロ・エルリッヒなど、世界で活躍するアーティストたちの作品を展示しています。いずれも、展示室や床全体に広がるインスタレーション、作品内部に入ることのできる彫刻など、ここ十和田でしか鑑賞することができない作品ばかりです。さらに美術館向いのアート広場やまちなかにも作品が点在しています。



ロン・ミュエク 《スタンディング・ウーマン》 Courtesy Anthony d'Offay, London Photo: 小山田邦哉



## [同時開催]

フェスの期間中に開催される展覧会です。公式ガイドブックに付いている「パスポート」を提示いただくと各展覧会を割引料金で鑑賞できます。

### ○青森県立美術館

#### 「帝国ホテル二代日本館 100 周年 フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」

会期 2024 年 3 月 20 日(水・祝) - 5 月 12 日(日)

休館日 3/25 (月)、4/8 日 (月)、4/15 (月)、4/22 (月)

主催 フランク・ロイド・ライト展青森実行委員会 (青森県立美術館、青森放送、青森県観光国際交流機構)、フランク・ロイド・ライト財団

#### 「鴻池朋子展：メディスン・インフラ」

会期 2024 年 7 月 13 日 (土) - 9 月 29 日 (日)

休館日 第 2・4 月曜(祝日の場合はその翌日)

主催 鴻池朋子展実行委員会 (青森県立美術館、青森朝日放送、青森県観光国際交流機構)

### ○八戸市美術館

#### 「展示室の冒険」

会期 2024 年 4 月 20 日(土) - 6 月 24 日(月)

主催 八戸市美術館

#### 「tupera tupera のかおてん。」

会期 2024 年 7 月 6 日(土) - 9 月 1 日(日)

主催 青森朝日放送

#### 「コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化」

会期 2024 年 3 月 23 日(土) - 7 月 8 日(月)

主催 八戸市美術館

#### 「コレクションラボ 008 彩る書」

会期 2024 年 7 月 13 日(土) - 10 月 28 日(月)

主催 八戸市美術館

### ○十和田市現代美術館

#### 「尾角典子展」

会期 2024 年 7 月 6 日(土) - 9 月 8 日(日)

会場 space (十和田市西三番町 18-20)

主催 十和田市現代美術館

## 各美術館について

### 青森県立美術館

| 建築家：青木淳

隣接する三内丸山遺跡の発掘現場から着想を得た、トレンチ（壕）とホワイトキューブからなる建築が独創的です。シャガールのバレエ「アレコ」舞台背景画のほか、奈良美智、棟方志功、成田亨など郷土作家の作品を展示。日本画や洋画、現代アートまで幅広いコレクションと演劇・音楽など舞台芸術への取り組みにより、豊かな芸術の魅力を発信しています。

→<https://www.aomori-museum.jp/>

### 青森公立大学 国際芸術センター青森

| 建築家：安藤忠雄

周囲の豊かな自然環境を生かし、建物を森に埋没させる「見えない建築」をテーマとした建築が特徴的です。アーティスト・イン・レジデンス（滞在制作）を中心に、ジャンルに捕らわれない展覧会、トーク、ワークショップなどを開催しています。春から秋にかけては敷地内の森の散策や、20数点を数える野外彫刻の鑑賞も楽しむことができます。

→<https://acac-aomori.jp/>

### 弘前れんが倉庫美術館

| 建築家：田根剛

約100年前に酒造工場として建てられた煉瓦造の建物を改修した美術館です。「記憶の継承」をコンセプトに、建物本来の姿を残してリノベーションを行いました。建築や地域に根差したコミッション・ワークを重視し、奈良美智、ジャン＝ミシェル・オトニエルの作品をはじめ弘前ならではのコレクションを形成。黒いコルタールの展示壁など空間の特性を生かした現代アートの展覧会を開催しています。

→<https://www.hirosaki-moca.jp/>

### 八戸市美術館

| 建築家：西澤徹夫、浅子佳英、森純平

様々な活動を支える巨大な空間「ジャイアントルーム」を取り囲むように、展示室などの専門性の高い個室群が配置されています。〈種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～〉をテーマとし、八戸の美や文化を伝える収蔵作品を様々な切り口で紹介する展示や、幅広いジャンルの企画展、プロジェクトを展開しています。

→<https://hachinohe-art-museum.jp/>

### 十和田市現代美術館

| 建築家：西沢立衛

人間と自然をテーマに、草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。展示室1部屋に1作品を展示することで、作品の中に入り込むような鑑賞体験ができます。大小様々な展示室がガラスの通路でつながれており、アートの家を訪ね歩くような構造が特徴的です。館内だけではなく、周辺のアート広場や商店街にも作品が点在し、まち全体でアートを楽しむことができます。

→<https://towadaartcenter.com/>



©Naoya Hatakeyama

©Daici Ano

